

香取遺産

Vol.127

圓生涯学習課

☎(50)1224

臨濟宗妙心寺派の名刹

大洞山光福寺



▲光福寺本堂



▲光福寺山門

光福寺は寺内字広長に所在する臨濟宗妙心寺派の寺院で、山号は大洞山といえます。本尊は釈迦如来・普賢菩薩・文殊菩薩の三尊です。

寺伝によると創建は平安時代後半、延久4年(1072)で、当初は天台宗であったようです。鎌倉中期の建治年中(1275~1278)、現在の臨濟宗に改宗し、京都妙心寺の末寺となりました。その後、後醍醐天皇の勅願寺として、また足利氏・千葉氏・国分氏など中世武士の帰依をうけています。

主尊の釈迦如来は、鎌倉期の作と伝わる、木造寄木造りの座像で、高さは65cmです。右脇侍の文殊菩薩は、片足を他の膝頭に乘せて腰かける姿の半跏像で、宝冠を着け、獅子に乗っています。座高は38cmです。また左脇侍の普賢菩薩も半跏像で、白象に乗り宝冠を着けています。市内では、この種の仏像は類例がなく、昭和45年5月に市指定有

形文化財となりました。また、寺宝の後水尾天皇から下賜された藕糸(蓮の糸)の袈裟、後醍醐天皇の繪旨や足利氏・千葉氏・国分氏関係の制札などの古文書、領主松平丹後守信圭が寄進した木造十六善神像などの3点は昭和59年9月に市指定有形文化財となりました。

境内には、本堂・庫裏・山門などがあるほか、本堂裏などに鎌倉時代以来の板碑が存在しています。本堂は間口十間、奥行七間の大きさで、幕末の安政5年(1858)に再建されています。昭和25年、27年に茅葺きの総葺き替えがなされ7万束を要したといわれています。昭和49年から50年にかけて、今の銅板葺きになりました。

光福寺は開基以来、天皇はじめ諸武將などの厚い帰依をうけた由緒ある寺院です。古くは周辺地域が寺領であったことから、「寺内」の地名が残ったともいわれています。